雑感あれこれ…「二にこだわって」

安来市　卜蔵　俊朗

最近、二という数字にちょっとしたこだわりをもって生きている。なんとなく、二が気になり目標となり、脳裏をかすめていく！　しばらくは、二を見つめながら、自らの生活に挑んで行きたいと思う。

一つ目に、目下半日程のアルバイトに精を出している。それは、二〇〇〇、〇〇〇を蓄える目標があるからだ。そこには、キャンピングカーを手に入れ、全国津々浦々マラソン行脚をしたい、と思うか…。美しい景色にふれ、爽やかな風をあび、走った後の爽快感とその土地の味や湯の香り、まさに、極楽極楽、最上の幸せ感に浸る。あ～いい湯だ、いい人生！　そんな、こんなを夢みて精を出している・・。

更に、二十一世紀とともに始めたジョギング。二〇十六年を迎え、十五年が経過した。新春に積算したところ三万七千六百キロに達していた。このペースで行くと本年秋口には地球一周を到達し、二回目に入れると期待している。その時、どんな心境で達成を迎えるのか今からの楽しみにしている・・。

更に加えるなら、黒住教教師として教会所務めをするようになり、二年目に入る。教祖神の御教え、また現教主や先輩教師達から、またお道連れからも、数々の学びを載きながらの日々である。倣(まね)ることなく誠の道を歩んでいくことが、この道を生きる金科玉条と考え精進だ・・・

傘寿を迎えて思うこと

江津市　楸　眞生

昨年十一月に傘寿を迎え、自分の体力と気力が並行しなくなってきた。どちらも衰えを感じ、あちこちのだるさ、やる気はあっても体がついて来ないなどが見えてきた。身体をいたわりつつ周りに迷惑をかけないように思いながら過ごしている。

しかし、身体の事だけではすまされない問題が出てきた。それは、運転免許証をどうしようか、苦労して得た免許証、今年の秋に更新の期日が迫っている。この機会に免許証の返上をしてはどうかと夫に言われている。

昨年の秋ごろから遠出も控え集落内のみ必要な時だけの運転に留めているが、どうも物足りない。まだ大丈夫だと思っているのは自分だけかもしれない。三十五年余り運転してきてこの便利さには他に替わるものはない貴重なものであった。

教頭試験に合格してすぐ免許を取りに通う。その間一年生担任の途中から教頭に昇任となる。いずれ転勤もあり通勤に必要なのですぐ車を購入する。教頭職になると、教頭会、教育委員会へ伺うなど出張もあり、なくてはならない自動車であった。

退職してからは、地区の婦人会の役員として会合も多く、足となって活躍でき便利で貴重なものであった。まさに自動車の世の中であり、自分が運転することになるとは思わなかった。

退職教頭会が設立され、第一回目に松江で開催され一泊で参加、その後出雲や安来、などあちこちでありほとんど参加したが、自動車あればこそと思った。不可能を可能にさせる自動車の免許証、いよいよお別れの時が迫ってくる。夫の言うことにしたがって秋の免許証更新を返上をする覚悟が出てきた。免許証に傷をつけず、三十数年運転ができたことに感謝して秋に免許証返上に臨みたいと思っている。

広島県

創立三十周年記念誌より
絆　第十六号より

ご褒美、頂戴しました

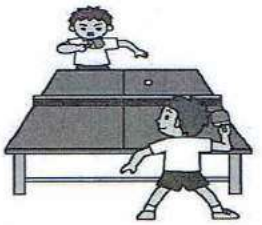
尾三地区　上野　雅昭

私は、長く「卓球」を続けている。競技歴は、約六十数年になる。現在も現役選手として年間三十試合位参加している。最近は、年令別の大会が有るので、体力的・技術的には割合「楽」になった。

「継続は力なり」と古来より言い伝えられている。「力」の解釈は、いろいろとあると思う。運動で言

えば、続けているうちに着実に技術がつき、他より秀でる力量を備え、それに伴う成績もついてくる「力」。続けることにより技術力・体力を維持し、その結果、続けることを怠っている「力」の育った同年輩を抜き去る時が来る「継続の力」。

私のプレースタイルは、三十歳代半ばで大きく変わった。生涯スポーツとして付き合っていくには若い時の脚を使って動き回る戦型では体力が続かない。バックを強化して両ハンドでプレーする戦型に変えた。



変えた当初はいろいろと非難をされたが、結局これが今日まで競技を継続できた大きな決断であった。

毎年開催される全国教職員卓球選手権大会（八月上旬～お盆前後の開催）で三～四日間に参加し、昨年夏、五十年連続出場特別表彰を受けた。広島県では初めて、全国でも四人目というご褒美を頂いた。

夏休みの中、体育大会・平和学習等多忙な合い間をぬい、毎年参加出来たのは、当時の職場の同僚の方々・家族の支えがあればの事で、ズーッと健康でいれた事と感謝している。継続してがんばっていれば何時か良い事がある。

次は、六〇年連続出場を当面の目標として、今夏の札幌大会のランキング保持・継続に日々の身体ケアと技術力の維持に努めていきたい。

『絆』に寄せて

蓮浦　清子

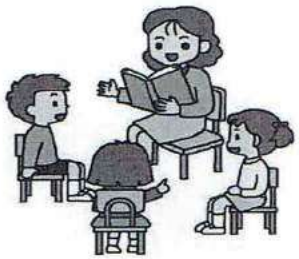
教員生活のほとんどを竹原市で過し、退職を期に三原市に転住、早や十三年になりました。

数年間、県退職教頭会の尾三地区（尾道・竹原）の理事として、市部活動、県大会など先輩の方々とご一緒させていただきました。全国退職教頭会のもと、毎年各地区をまわっての各地域で様々に工夫された県総会・研修会・フィールドワーク。私たちの歩みを省みながら、今の様々の思いを、生活を語り合い、多くのことを学びました。何よりも会誌「絆」を実感しました。

今は、絵手紙・絵画などの講座に参加しています。なかなか上手になりませんが、皆さんと共に楽しく学んでいます。

また、絵本の読み語りをしています。園児・小・中学生から「絵本のおばちゃん」高校大学生から「元気ですか」サロンの人たちからも「楽しかった」と声をかけてもらい、度々、ボランティアしているつもりが、されている自分に気づかされています。

今後もこれらの生活の中で、多くの人たちとの交友を深め、後後半の人生を充実させていきたいと思う。今日、この頃です。



研修の旅
光の王国ハウステンボスと長崎軍艦島

＝光、煌くイルミネーション－
スリル満点のクルーズ＝

平成二十七年度（二〇一五年度）　研修旅行は、十一月十六日～十七日一泊二日で実施、十二人の参加でした。列車の中で集合を確認「元気そうだネ」「よろしく頼むヨ」の声、新幹線こだま号は、全席自由席で空席が多い。早速、席を向かい合わせにして、宴会が始まった。しかし、あっと言う間に博多駅に到着。

九時四十分一同貸切りバスに乗り込み、一路ハウステンボスに向かう。十二時三十分には到着し、入場券と食事券をもらい、早速入場した。入り口付近で記念写真を撮る。その後、園内で最も高いタワーシティーのレストランで、思い思いの昼食を摂る。

いよいよ夜のイルミネーションまで長い滞在時間の始まり、私達も自由行動。世界最大級のスリラーシティでは、修学旅行で来ていた高校生の悲鳴が外まで響き、来場を促しているかのよう。ホールで演じている、ハウステンボス歌劇団の踊りには、会員のみんなが鑑賞し満足そうに出てきた。一方、庭園に目をやると七百品種の秋バラが香る。

敷地内を、パークバスや四人乗りのファミリー自転車が走り、運河にはカナルクルーザーが浮かび、

見る所、食べる所に事欠かない。お金と時間がある人は、一度見に行かれたら。

我々が修学旅行に連れてきた当時の面影はない。

夜になり、園内に飾られている世界最大級千三百万個のイルミネーションが一斉に灯され、「ワー綺麗」という驚きとため息があちらこちらからあがる。光と噴水の運河クルーズに、乗船した会員は、水中から虹色に輝く光と噴水のショーに、満足していた。

さらに、シンボルタワーから青い海のように溢れ落ちる、高さ日本一、六十六Mのイルミネーションの光の滝は、暫し見とれるほどの景観であった。

心残りではあったが、バスで長崎市内のホテルに到着、夜は、交流し親交を深める。

二日目は、朝から小雨が降っていた。朝食後、大浦天主堂、グラバー園、平和公園など坂の町長崎を散策。いよいよ、目的の軍艦島へ、港では待機していた船は、定員二百人の、「ドラゴンークルーズ」という勇ましい名前で、観光客で一杯であった。途中高島上陸でトイレ休憩と煤炭資料館を見学、再び船に乗り山口・九州だけでなく日本の近代化を支えた、軍艦島（正式名称端島）に到着するが、この日はあいにく波が高く荒れていて、残念ながら上陸を断念。ガイドの説明を受けながら、海から軍艦島を見学する。軍艦島は、二〇一五年、「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼　造船　石炭産業」の構成資産の一つとして、世界文化遺産に登録されました。

寄港後、バス・新幹線を乗り継ぎ帰路に着いた。次は「ここに行こう、あそこにしたら」との希望が出て、研修旅行の良さや意義が感じられた。

懐かしい思い出
―ハーモニカと懇親会―

堀　一明

少々自慢話になるがお許しください。入会当時、同一会場であった二つの懇親会、中途で部屋を間違えた。宴はまさに後半、司会者に促されここぞとばかり登壇する。曲目は『緑の山河、日教組の歌、沖縄を返せ…・』どうも雰囲気がおかしい。第一、日の丸が掲げられている。

「あなた場所を間違えていませんか」我に返り、懇親会費十五分で全額支払う。これを機会に県退職教頭会の懇親会専属演奏者になる。

終列車に乗り遅れ、駅のホームで夜を明かし風邪のおまけがついたのも懐かしい。

当時海外旅行でも演奏していた。油の乗った時期である。

カナダでは、フォスターの曲で二人のカウボーイを泣き伏せた。

ハワイでは、郷子の葉陰に沈む夕日をバックに臨時ステージに登壇『憧れのハワイ航路』『帰り船』…。中国大連においては『北国の春』で友好を深め、まさに国際ハーモニカニストになった錯覚を覚え、自信もついてきた。

年々の懇親会、ほぼ全出席、余興に参加する。その都度、皆さんからの絶大なる拍手、唱和、リクエスト、次回への予約までいただき、光栄の至りでした。「来年また」という皆さんの励ましに支えられ今日があること幸せです。感謝致します。「歌は世につれ、世は歌につれ」

難聴気味の今日、音程が定まらず苦労している。またいつか聞いてやってください。県退職教頭会の益々のご発展を祈念いたします。

無　題

松村　國重

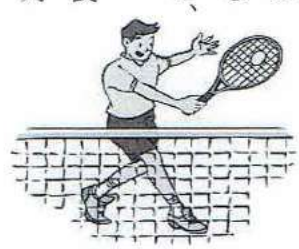
十六年前、県教頭会会長の時、脳梗塞を患う。退職後、元会長であった谷先生に誘われ本会に入会した。しかし、眼・耳・足に障害が残り、何ができ、何を生き甲斐にこれから生きていこうか悩み、まず四国八十八ヵ所巡礼に頑張って十二年間で十周やりきった。

また、次に取り組んだワイズ杯も一八〇〇人規模のテニス大会になり、本年十九回になる。

スポーツ少年団を作る時からの仲間。有り難いことである。もう一つ、白菊会も後継者ができ、ほっとしている。

退職教頭会で、事務局長次長の時『絆』の原型を作り、反対を押し切り発行にこぎ着けた。その後、次の事務局長に引継ぎ発展している。事務局長時代に事務局体制がやっとできた。協力に感謝。また、賀寿について、十年前県総会で発言して改善に努めた。課題として残ったことは、山口・岡山県のように地震保険の活用による県・支部の旅行に補助が出せる体制がつくりえなかったことです。

最後に広島支部長として、参加して良かった、楽しかった、仲間ができた、苦しかった教頭時代を忘れ、楽しく仲間と生きていきたい。



自己研鎖の積み重ね

秋山　泰章

三十六年間の奉職を全うし、平成二十七年三月をもって、退職させていただき、今は感謝の気持ちでいっぱいです。しかも、縁あってこの退職教頭会創立三〇周年という記念すべき年に、このような記念誌の原稿に参加できることを重ね重ね感謝いたします。

人を育てるという仕事を通して、私自身が成長し、自己を高めることができました。

人にはそれぞれ使命があります。これから、その使命を果たすために、自己研鑽を日々重ねていき、世のため、人のため、宇宙のために尽くしていく所存です。

これからも、この会のさらなる発展を祈念して結びといたします。

岡山県

福寿草　第三十八号より

第三の人生

加戸　裕子

一昨年、退職教頭会の講演会で公務員生活から手品師生活三年目という講師の先生のお話をお聴きしました。まさに私も昨年六月から、北房（真庭市）の古民家レストランの仕事という道を歩むことになってしまいました。

仕事をすることになった経緯はさておき、教職の時には経験できなかった接客の仕事なのです。接客マナーをいろいろ学ぶのですが、これが奥が深く難しいのです。

お客様が満足し、また来ようと思ってくださるようなお店づくりをめざし、例えば開店前の準備では、毎日米のとぎ汁で廊下を拭き、玄関はただ掃くだけでなく、掃き清める気持ちで掃くのです。玄関の打ち水は、全て開店の準備が整いましたどうぞおいでくださいという意味があることも学びました。

また、お客様の前では笑顔の接客を心がけようと思っていても、実際にはお客様を迎え、注文を取り、お膳をお出しするとなるとなかなか難しいものです。

お客様からは電話での応答や言葉遣い、お膳の出し方、接客態度などで注意を受けることもあります。

気を遣い、ストレスもありますが、おいしい料理を出してくれている厨房のためにも優しい接客を心がけなくては、と思えるようになりました。

教職時代までが第一の人生。退職してから自由に過ごした時が第二の人生。思いもかけなかったことから始まった接客の仕事、知らないことばかりに驚きながら過ぎた一年四ヶ月。これって、第三の人生といえるのでしょうか。

ノートルダム清心女子大学理事長渡邊和子先生の「置かれたところで咲く」の言葉から、退職後どんな咲き方ができるのかと思って暮らしてきましたが、これも私にとって、自分なりの咲き方なのかなと思っているところです。

岡山県　郷土美術館